



2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年8月6日
上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名）常務執行役員 経営企画室 室長（氏名）京極 敦 TEL 03-5318-7530

四半期報告書提出予定日 2018年8月7日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	18,366	1.1	748	△22.5	765	△22.9	526	△22.0
2018年3月期第1四半期	18,163	2.8	966	△15.4	992	△14.7	674	△14.6

（注）包括利益 2019年3月期第1四半期 611百万円（△26.9%） 2018年3月期第1四半期 836百万円（22.2%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	31.93	ー
2018年3月期第1四半期	40.95	ー

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	65,557	31,282	47.7
2018年3月期	64,837	30,984	47.8

（参考）自己資本 2019年3月期第1四半期 31,282百万円 2018年3月期 30,984百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	ー	18.00	ー	19.00	37.00
2019年3月期	ー				
2019年3月期（予想）		18.00	ー	19.00	37.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	38,600	4.3	2,080	△3.4	2,100	△3.9	1,400	△6.0	84.97
通期	77,000	5.8	4,100	△1.8	4,150	0.0	2,880	0.1	174.80

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	16,476,000株	2018年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	493株	2018年3月期	441株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	16,475,520株	2018年3月期1Q	16,475,719株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年6月30日)におけるわが国の経済は、人手不足の深刻化による人件費の上昇や米国による保護主義的な通商政策の影響が懸念されるものの、輸出や設備投資が堅調であり、企業収益は過去最高の水準が続いていることなど、景気は緩やかながらも回復基調を持続しております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、次の成長へ向けて当連結会計年度を初年度とする新しい中期経営計画『KENKO Value Action ～価値の創造～』を策定いたしました。この新中期経営計画の基本方針は、「CSV経営(Creating Shared Value)～共通価値の創造～」とし、社会と企業の両方に価値を生み出す企業活動を実践していくため、次の5つのテーマを掲げております。

- (I) 地域貢献 ～地域貢献度No.1企業を目指して～
- (II) 環境・資源 ～資源、エネルギー利用の効率化～
- (III) サプライチェーン ～サプライチェーンの短縮と事業活動の改革～
- (IV) ソリューション ～「技術・サービス」の事業化～
- (V) 「働き方」～従業員満足度の向上～

以上の「CSV経営」における5つのテーマに基づいた3つの事業戦略は次のとおりであります。

- ①お客様と共にビジネスを創造・・・お客様の抱える課題に対して、当社の「商品・メニュー提案力」「情報発信力」等のノウハウを活かし、共に課題解決に取り組む
- ②“創り・応え・拓げる”生産体制・・・お客様を支える安定した商品供給体制の構築
- ③サラダ料理を世界へ・・・サラダ料理を世界に向けて提案・拡販を目指す

この事業戦略の立案及び実践により、最終年度である3年後の数値目標は連結売上高850億円、連結経常利益46億円を掲げております。その目標達成に向けてグループ生産拠点の能力増強に取り組んでおります。連結子会社である株式会社ダイエットクック白老が2018年4月に新工場を稼働し、株式会社関東ダイエットクック神奈川工場が2018年6月に稼働しました。

当第1四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

(売上高)

売上高につきましては、ファストフード向けのマヨネーズ・ドレッシング類や日配サラダが好調に推移しました。また、株式会社ダイエットクック白老及び株式会社関東ダイエットクック神奈川工場の稼働が寄与し、売上高を伸ばすことができました。

(利益)

利益につきましては、新工場の稼働に伴う一時的な費用が発生したことに加えて、原材料価格の高騰や人件費の上昇等の要因があり減益となりましたが、売上高増加に伴う工場の操業度効果や経費の削減等の収益改善を引き続き進めてまいります。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は18,366百万円（前年同四半期比202百万円の増加、1.1%増）、連結営業利益は748百万円（前年同四半期比217百万円の減少、22.5%減）、連結経常利益は765百万円（前年同四半期比227百万円の減少、22.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は526百万円（前年同四半期比148百万円の減少、22.0%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は以下のとおりであります。

(調味料・加工食品事業)

サラダ・総菜類につきましては、当社ブランドの『和彩万菜®』シリーズが好調に推移しました。また、コンビニエンスストア向けにひじき煮が伸長し、和惣菜の売上高が増加しました。

タマゴ加工品につきましては、サンドイッチ用や総菜パン用のタマゴサラダ、麺用の錦糸卵、オムライス用のスクランブルエッグがコンビニエンスストア向けを中心に増加しました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、コンビニエンスストア向けや外食向けにドレッシングが新規採用されました。また、ファストフード向けにナゲット用のカップソースやマヨネーズが伸長し、輸出向けのドレッシングも増加しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は15,118百万円（前年同四半期比0百万円の増加、0.0%増）、セグメント利益は834百万円（前年同四半期比79百万円の増加、10.5%増）となりました。

(総菜関連事業等)

食品スーパー向けにシーフード（イカ、カニ、明太子他）を使用した商品が好調に推移し、定番商品のポテトサラダも伸長しました。また、季節のイベント商品も売上高増加に寄与しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は2,952百万円（前年同四半期比225百万円の増加、8.3%増）、セグメント損失は78百万円（前年同四半期は225百万円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、65,557百万円（前連結会計年度比719百万円の増加、1.1%増）となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、34,275百万円（前連結会計年度比421百万円の増加、1.2%増）となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、31,282百万円（前連結会計年度比298百万円の増加、1.0%増）となりました。

(自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、47.7%（前連結会計年度比0.1ポイント減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月15日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,072	10,615
受取手形及び売掛金	13,566	14,238
商品及び製品	1,866	1,892
仕掛品	10	12
原材料及び貯蔵品	1,100	994
その他	504	839
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	30,121	28,591
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,676	9,915
機械装置及び運搬具(純額)	5,904	8,497
土地	5,978	5,900
建設仮勘定	8,543	7,822
その他(純額)	363	495
有形固定資産合計	30,466	32,633
無形固定資産	219	229
投資その他の資産		
繰延税金資産	611	543
その他	3,455	3,596
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	4,030	4,103
固定資産合計	34,716	36,965
資産合計	64,837	65,557

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,940	10,151
電子記録債務	825	1,002
1年内返済予定の長期借入金	1,165	1,102
未払法人税等	866	307
その他の引当金	475	325
その他	8,034	7,461
流動負債合計	21,307	20,350
固定負債		
長期借入金	7,131	7,598
退職給付に係る負債	365	368
その他の引当金	989	992
その他	4,059	4,964
固定負債合計	12,546	13,924
負債合計	33,853	34,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	18,890	19,103
自己株式	△1	△1
株主資本合計	30,004	30,217
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,064	1,141
為替換算調整勘定	2	△5
退職給付に係る調整累計額	△87	△71
その他の包括利益累計額合計	979	1,064
純資産合計	30,984	31,282
負債純資産合計	64,837	65,557

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	18,163	18,366
売上原価	13,486	13,704
売上総利益	4,677	4,662
販売費及び一般管理費	3,710	3,913
営業利益	966	748
営業外収益		
受取利息	0	—
受取配当金	17	17
持分法による投資利益	—	1
その他	30	25
営業外収益合計	47	44
営業外費用		
支払利息	14	25
持分法による投資損失	3	—
その他	2	2
営業外費用合計	20	27
経常利益	992	765
特別利益		
補助金収入	7	62
その他	—	13
特別利益合計	7	76
特別損失		
固定資産除却損	4	0
減損損失	1	19
特別損失合計	6	19
税金等調整前四半期純利益	994	822
法人税等	319	296
四半期純利益	674	526
親会社株主に帰属する四半期純利益	674	526

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	674	526
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	154	77
退職給付に係る調整額	14	16
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	△8
その他の包括利益合計	161	85
四半期包括利益	836	611
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	836	611

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	15,118	2,726	17,845	318	18,163	—	18,163
セグメント間の 内部売上高又は振替高	152	2,168	2,321	—	2,321	△2,321	—
計	15,270	4,895	20,166	318	20,484	△2,321	18,163
セグメント利益又は損失(△)	754	225	979	△11	968	24	992

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額24百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	15,118	2,952	18,071	295	18,366	—	18,366
セグメント間の 内部売上高又は振替高	160	2,246	2,407	—	2,407	△2,407	—
計	15,278	5,199	20,478	295	20,773	△2,407	18,366
セグメント利益又は損失(△)	834	△78	755	△11	744	21	765

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額21百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。